

5 バリューチェーンの活動

●金沢大学生協の環境負荷軽減活動

～学内で手軽にできるエコ活動～

大学内で学生・教職員が日常の大学生活の中で手軽に実施できる環境負荷軽減活動に取り組んでいます。

リサイクル弁当容器 「リ・リパック」の回収推進

手作り弁当の容器にリサイクルトレイを使用しています。トレイを回収BOXで回収しており、1枚10円分の募金として寄付しています。容器回収数の合計は5,038枚で、回収率は26.61%でした。



間伐材使用の割り箸「樹恩割り箸」の活用



国産の間伐材を使用し、知的障がい者施設で生産されている「樹恩(JUON)割り箸」を食堂の弁当用に使用し普及に取り組んでいます。

樹恩(JUON)割り箸

●「金沢大学キャンパス環境整備の会」の活動

本学の退職者が、「キャンパスの緑化・整備推進に貢献する」という趣旨の下に、4月から11月までの間、週1回、2時間の作業を行っています。2017年度は21回の緑化・整備活動を行いました。



緑化・整備活動の様子

6 生物多様性の保全状況

●角間里山本部の取組み

2017年度は角間キャンパスの「里山ゾーン」を利用し、公開講座や「能登里山里海マイスター」育成プログラムの講義と実習を行いました。また、里山を活用した地域づくりに関するフォーラムを同時開催し、里山のこれからについて活発な意見交換を行いました。



里山ゾーンでの公開講座の様子

7 学生活動

●第12回学生リユース市

角間キャンパスにて第12回学生リユース市を開催しました。卒業予定の学生から使わなくなった家具・家電を無料で引き取り、主に新入生を対象に格安の価格で提供するというものです。



家具・家電を熱心に選ぶ来場者

●寄り添い続けること～東日本大震災から7年～

金沢大学ボランティアさぽーとステーションは、2011年の東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市を中心にボランティア活動を継続して行っています。参加学生数はこれまで1,000名を超え、2018年度は節目となる40回目ボランティア派遣が予定されています。



地域の夏祭りに参加した学生たちの様子

金沢大学環境方針

【基本理念】

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置づけをもって、グローバル社会をリードする人材の育成と世界に通用する研究拠点の形成を目標に定め、<先魁・共存・創造>というコンセプトのもと、不断に改革に取り組むこととしています。

この理念と目標に基づき、教育、研究、診療、社会貢献等あらゆる大学の活動において、国立大学法人としての社会的責務を自覚し、以下の基本方針の下、人間と自然とが調和・共生する持続可能な社会の構築を目指します。

【基本方針】

1. 環境に関する先進的教育を継続的に推進し、持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成に努めます。
2. 環境技術、環境計画、環境政策、環境医学、生物多様性など、幅広い分野において世界的な視野に立ちながら地域の特性を生かした環境に関する研究を推進します。
3. 本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・解析するとともに、環境負荷の低減のため、資源・エネルギーの使用量削減、温室効果ガスの削減に積極的に取り組みます。
4. 化学物質の安全かつ適正な管理、廃棄物の適正処理と再利用・再資源化により、環境負荷の低減に努めます。
5. 環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発に努めます。
6. 本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を遵守するとともに、本学の全ての構成員が協力し、継続的な環境マネジメントシステムを実施します。

【金沢大学環境マネジメントシステム】

(2017年4月1日現在)

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。

【施設環境企画会議】

大学の方針・目標の策定、活動計画の立案など



【学生・教職員】

取組みの実施、規制等の遵守など

【学長・役員】

全体の評価と見直し

【環境調査チーム】

取組みの実施状況の確認、改善のための助言など

金沢大学環境報告書2018

【ダイジェスト版】2018年10月発行

報告対象期間：2017年度(2017年4月～2018年3月)
発行：金沢大学

お問合せ先：金沢大学 施設部 施設企画課
〒920-1192 金沢市角間町(自然科学5号館1階)
TEL.076-264-6180 FAX.076-234-4030
e-mail : faunei@adm.kanazawa-u.ac.jp

2014年9月1日 金沢大学長

山崎光悦

「金沢大学環境報告書2018」の本編は金沢大学Webサイトで公開しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kankyot/torikumi/report/2018.pdf



Environmental Management Report 2018,
Kanazawa University

金沢大学 環境報告書2018

ダイジェスト版

報告対象期間：2017年度(2017年4月～2018年3月)



金沢大学ではさまざまな環境活動を通して、地球と暮らしを守るための取組みにチャレンジしています。

地域・社会貢献活動

インドネシアにおける 寄生虫のフィールド調査

インドネシア南西スバ州ワインニャブ村において、日本人学生と現地保健関係者が共同で学校健診で採取した学童便を材料に、寄生虫の顕微鏡検査をしました。また現地関係者には寄生虫症対策構築のためのエキスパート教育をしました。



顕微鏡検査



ジャカルタのエイクマン研究所及びマカッサルのハサマディン大学との合同調査

環境に関する教育と研究

アンコール世界遺産における海外インターンシップ —世界遺産での環境保全事業—



参加学生たち

アンコール世界遺産で知られるカンボジアでのインターンシップを行いました。国立アンコール遺跡整備公団の業務に2週間従事し、水環境保全の中心となる運河や水門の維持管理、新しい村づくり現場の支援、魅力的な観光地の開発といったさまざまな業務を経験しました。



公園職員との水門の開閉検査

学生活動

里山保全活動と 大学通学路クリーン作戦

里山サークルグリーンは角間の里山を中心とした里山保全活動や大学通学路清掃などの活動をしています。竹林整備として竹の伐採を行い、竹チップや竹細工に加工して、角間里山まつりで販売しました。春にはたけのこを掘り、生協食堂に納入し、期間限定メニューとして提供されました。



大学通学路クリーン作戦の様子



竹林整備の様子

1 環境に関する教育と研究

● 現代的教養コアとしての環境学



「大学・社会生活論」の授業項目「環境論」の様子

共通教育における環境教育は、「大学・社会生活論」と「環境学とESD」によって行われています。「環境学とESD」では日本が経験した深刻な公害問題とその克服の歴史、新たな環境政策の展開について学び、国際社会が向かう方向について認識することにより、21世紀型の新たな価値観、文明史観を身につけることを学習目標としています。

● 藤澤ゼミで取組んだ「節電の社会実験」

学生に対して省エネを呼びかける「省エネ社会実験」を実施しました。ポスターやSNSを利用し、「省エネの呼びかけで学生に行動変容が起きるか」を検証しました。



SNSやポスターでの呼びかけ

● 環境にやさしい生活を幼児期から - 附属幼稚園の取組み -

環境にやさしい取組みをする「エコ幼稚園」として石川県から認定を受けました。これまで以上に環境にやさしい生活を意識して教育活動に取組むことができました。今後その姿勢を大切にしていきたいです。



ゴーヤのグリーンカーテン



エコ活動に取組む園児たち

● 地域特産の藻場造成材を活用した藻場再生への取組み

北陸電力株式会社、株式会社ホクコンと共同で、地域特産の藻場造成材を開発しています。石川県輪島市の名舟(なふね)港でのフィールド実験を4年間にわたって実施し、カジメ群落再生の可能性や課題について調査しました。



海中に投入前の藻場造成材



海中の藻場造成材



生長した褐藻クロメ

● 大気粉塵中化学物質のモニタリング及び呼吸器への影響

大気粉塵に含まれる化学物質や重金属が、慢性咳嗽患者の咳などの症状に関連していることを示し、報告しました。また、以前から計画していたベトナムの住民を対象とした大気粉塵の呼吸器への影響に関する共同研究を開始するための準備を進めました。



インドネシアからの留学生の発表の様子

● 尾小屋地下実験室(OUL)における研究活動



トンネル内部

石川県小松市の尾小屋地下実験室Ogoya Underground Laboratory (OUL)では、地上では測定できない極微量の放射能測定を目的に、主に北太平洋全域、東シナ海、日本海の極微弱な放射性セシウムの濃度分布を測定しています。



上から見た測定器

3 環境コミュニケーションの状況

● 附属図書館の取組み

● 金大生による“調べ学習”教室の開催

環境問題に対する理解を深めることを目的とした「金大生による“調べ学習”教室」を開催し、小中学生20名とその保護者が参加しました。参加者は、自然科学系図書館に設置した環境学コレクションコーナーを中心とした資料を活用し、環境をテーマとした“調べ学習”に取組みました。



調べ学習教室の様子

● うちわとブランケットの館内貸出サービス



うちわの貸出



ブランケットの貸出

省エネしながら少しでも快適に過ごしていただくため、夏季はうちわ、冬季はブランケットの館内貸出サービスを行いました。

● 附属図書館ブックリユース市の開催

学生、教職員から提供を受けた図書など、合計3,200冊の図書を附属図書館に展示し、希望者が自由に持ち帰ることで、ほとんどが再利用されました。



学生等で賑わうブックリユース市

● 『しまんと新聞ばっく』をつくろうワークショップを開催

古新聞でバッグをつくるワークショップを自然科学系図書館国際交流スタジオで開催しました。留学生を含む12名の参加者が、天然糊の話を聞き、環境について思いを巡らせた後で「新聞ばっく」の作成を行いました。

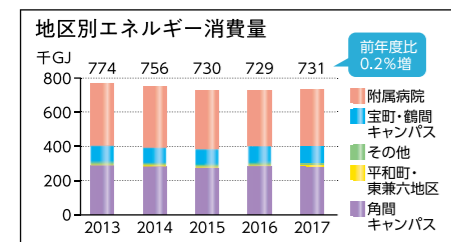


「しまんと新聞ばっく」を作成する参加者

2 環境配慮への取組み

● エネルギー消費

2017年度のエネルギー消費量は、約731千GJで、2016年度と比較して、約0.2%増加しました。



● 水資源の利用状況

2017年度の年間水使用量は、約47万m³で、前年度とほぼ同量でした。

● 化学物質の適正管理と特定化学物質の排出・移動量

PRTR法に基づき、角間キャンパスではクロロホルム、ジクロロメタン、n-ヘキサンの3物質、宝町・鶴間キャンパスではキシレンが報告対象物質になりました。今後も研究テーマ等の変化によって化学物質の取扱い量が増えることが予想されます。

● 大気汚染物質の排出と抑制策

冷暖房用としてA重油ボイラー、ガスボイラー、ガスタービン・コージェネ設備、ガス発電機等が稼働しています。なお、いずれの設備でも、ばいじん等の大気放出濃度は法令の規制値を大幅に下回っており、適正な運転・管理を行っています。

● 公共交通機関の利用促進

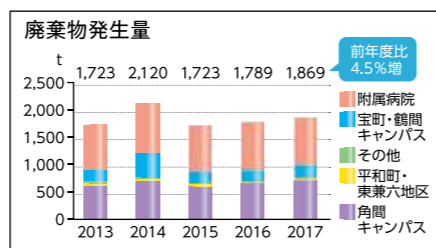
北陸鉄道株式会社発行の「角間地区フリー定期券」による運行を行い、学生に積極的な利用を呼びかけています。

● グリーン購入の推進

「環境物品等の調達に関する法律」に沿って環境物品等の調達を推進しています。20分野205品目すべてで、目標を達成しました。

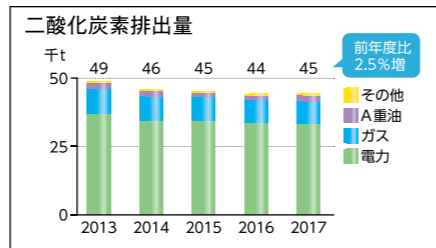
● 廃棄物の排出抑制と再資源化(リサイクル)

2017年度の廃棄物の発生量は1,869トンで、前年度に比べ約4.5%増加しました。産業廃棄物は、ある程度まとめて出す地区もあり、年度による発生量に変動が出ています。分別された古紙は約96%、ペットボトルは100%、蛍光灯は94%がリサイクルされています。



● エネルギーの消費等に伴う温室効果ガス(二酸化炭素)の排出と抑制策

二酸化炭素(CO₂)の排出量は、4.5万トンで、前年度より約2.5%増加しました。自然林への復元を目指した植栽を進めるように努力しています。



4 地域・社会貢献活動

● 北陸ESD推進コンソーシアムの取組み

富山/石川/福井の3つのユニットでそれぞれESDコーディネーターが中心となって、地球環境基金事業、日本ユネスコパートナーシップ事業他、ユネスコスクール支援等の活動を行っています。



ESD富山シンポジウムの様子

● 環境に関する公開講座を通じた大学の「地域・社会貢献活動」

金沢大学地域連携推進センターでは、環境に関する公開講座として、「能登を通してみる東アジアの大気環境」「果実をめぐる生き物たち」等の講座を実施しました。



環境に関する公開講座の様子

● 「いしかわ事業者版環境ISO」への登録更新

2012年度から2017年度まで登録更新をしました。コピー用紙の使用量の削減、水使用量の削減、グリーン購入の徹底、廃棄物の分別の徹底などに取組みました。

● 「いしかわクールシェアスポット」に登録

石川県の取組み「いしかわクールシェアスポット」の趣旨に賛同し、夏の暑い日に涼しく快適な時間を過ごせる場所として、附属図書館3館に登録しました。



クールシェアを呼びかけるポスター

● 能登学舎での取組み

● 社会人向け人材育成事業の実施

地元自治体と連携して、「能登里山里海マイスター」育成プログラムを実施しています。過疎高齢化に直面した能登半島で、新たなイノベーションを取り入れながら、持続可能な地域づくりを目指しています。

● 能登の里山里海の歴史と現状を伝える「里山里海学習館」の展示

地元住民の方や専門家の協力を得て、珠洲市の里山里海の自然と生業(なりわい)を紹介する展示室を設け、里山里海の生物多様性の現状を伝えています。



最近、準絶滅危惧種に指定されたドジョウの水槽展示

地域産業のひとつだった瓦産業の実物展示

● 身近な薬草勉強会

薬草と称される植物のミニ講座、薬草茶の試飲、見頃の植物解説や、薬用植物園で開花した植物や薬草を観察する公開講座を実施しました。定例会以外に「シャクヤク観察会」も実施し、多くの市民の皆さんが来園しています。



薬草解説



植物観察会

● 地域交流活動としての薬草栽培

地域の皆さんと薬草栽培を通じた交流活動を実施しています。いずれも年数回、定期的な活動として4年以上継続しています。



薬草栽培